

ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校
令和元年11月号

音楽会や遠足、修学旅行、持久走大会などの行事が目白押しの秋、元気にお過ごしですか？教育相談が行われたり、就学に向けての準備を進めたりしていく秋でもあります。発音について気になっていることはありませんか？発音について少し詳しくお伝えしたいと思います。

発音の誤り方

発音の誤りの多くは、実際の年齢に比べて幼い発音が残っているものです。

＜違う音にかえて発音してしまう場合＞ →置換

「さかな」→「たかな」、「からす」→「からちゅ」のようにサ行がタ行やチャ行に違えて発音してしまうなど、他の違う音に置き換えて発音してしまう。

このような誤り方は、小学校入学くらいまでに自然になくなる人が多いようですが、そのまま残っていて、お子さんも気にしているようでしたら発音の練習をお勧めします。

他の発音の誤り方として、「音が^{ひず}歪んでいる」という状態で、日本語のかな文字で書き表しようのない音に聞こえる場合です。

＜いろいろ歪んだ発音になってしまう場合＞ →側音化構音、声門破裂音など

「りんご」を「でいんご」とも「ぎんご」ともつかない、正しい語音に似ているけれども正しく発音されておらず、耳で聞くと不明瞭で歪んだ発音に聞こえる。

これは発音（舌）のクセのようなもので、一般的には自然改善することは少ないとされていますので、適切な練習をすることをお勧めします。

他にも、次のような場合があります。

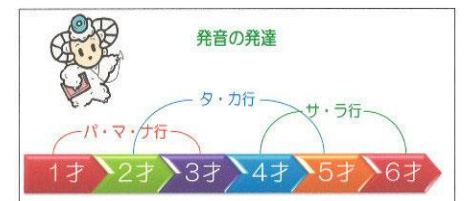
＜音を省略して発音してしまう場合＞

「かめ」→「あめ」、「まり」→「まい」のように語音の子音部分が省略されてしまい、アイウエオの母音だけを発音しているように聞こえる。

これら以外にも様々な誤り方があり、その種類や程度などによって指導の必要性が変わりますので、発音に関して気になることがあったら相談することをお勧めします。

発音の発達

発音の発達には順序があります。赤ちゃんにとって真似がしやすいパ行マ行アイウエオは早い時期から使い始めます。その後ナ行タ行カ行の音が言えるようになり、音を作るのが比較的難しいサ行ザ行ウ行などの音が正しく発音できるようになるのは5～6歳頃です。



側音化構音

発音の改善で篠津小のことばの教室に通っているお子さんの約3分の1は、側音化構音という発音のクセがあるお子さんです。「魚」を「タカナ」「シャカナ」というように誤りが分かりやすい「置換」と比べて、側音化構音は「なんとなく違う」くらいに感じる場合が多くあります。

- 発音する時に出る息が、口の真ん中ではなく側方へ出る。
- 発音する時に舌・口角・口唇・下顎が片側へ偏る。
- 日本語の仮名文字で書き表しようのないような、歪んだ音に聞こえる。
- 主としてイ列音や拗音（小さい「ゃゅょ」のつく音）に起きやすい。
- 「シ」と「ヒ」「チ」と「キ」、「ジ」「リ」「ギ」が特に混同しやすい。

正しい音と誤り音がよく似ている歪み音なので、障害音と分けることが難しく、発見が遅れがちです。親も子も発音のことを気にしているけれどそのままにしまい、自然改善が少ないので成人にもみられる場合が多くあります。高校や大学の面接、就職試験の頃に、「滑舌が悪い」と悩むことも多いようです。

ことばの教室では、力が入った舌のクセを治したり、誤り音を自覚するための聞き分け練習をしたりしながら、スモールステップで無理なく正しい音を獲得できるよう練習していきます。

ことばの発達には非常に個人差がありますが、課題をそのままにしておくと、ことばを気にして本読みや話すことが苦手になったり、何事にも消極的になったり、自己肯定感が育ちにくなったりと、学校での学習や生活に影響を及ぼすことがあります。早めにご相談いただくことにより、これからの見通しをお伝えすることができますので、いつでもご連絡ください。



随時受け付けています！

白岡市教育委員会
0480-92-1111（代表）
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017（直通）

